

# 十勝川水系自然再生基本計画(原案) 骨子説明資料

十勝川水系自然再生検討会 (第3回) 令和5年8月31日

## 第1章 背景

## 第2章 理念

## 第3章 十勝川流域及び河川概要

3-1 流域及びの河川の概要

3-2 治水事業の沿革

## 第4章 河川環境の変遷と課題整理

4-1 河川環境の変遷

4-2 十勝川水系河川整備計画

4-3 課題整理

## 第5章 自然再生の目標

5-1 自然再生の必要性

5-2 自然再生の目標

## 第6章 自然再生計画

6-1 計画の概要

6-2 自然再生の施策

6-3 改修事業における河道掘削の留意点

## 第7章 自然再生事業の実施方法

## 第8章 モニタリング

## 第9章 自然再生事業の推進体制と地域連携

## 本文目次

第1章	背景
第2章	理念
第3章	十勝川流域及び河川の概要
3-1	流域及び河川の概要
3-2	治水事業の沿革
第4章	河川環境の変遷と課題整理
4-1	河川環境の変遷
4-2	河川整備計画
4-3	課題整理
第5章	自然再生の目標
5-1	自然再生の必要性
5-2	自然再生の目標
第6章	自然再生計画
6-1	計画の概要
6-2	自然再生の施策
6-3	改修事業における河道掘削の留意点
第7章	自然再生事業の実施方法
第8章	モニタリング
8-1	モニタリングの考え方
8-2	モニタリング計画
第9章	自然再生事業の推進体制と地域連携

## 第1章 背景 ※以下の概要を十勝の地域の特徴を踏まえて記載する予定

### 【記述の方向性】

- 人口減少による開発圧力の低下を好機ととらえ国土利用の質を高める観点から、国土全体にわたって自然環境の質を向上させていくためには、国土レベルで、生態系ネットワークの基軸である森・里・川・海のつながりを確保することが重要であることを記載。
- 本格的な人口減少社会において、豊かさを実感でき、持続可能で魅力ある国土づくり、地域づくりを進めていくために、社会資本整備や土地利用において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を積極的に活用するグリーンインフラの取組を推進することを記載。

### 【概要】自然再生の背景について、下記のような内容を記載する予定。

- 「十勝川水系河川整備計画[変更]」を令和5年3月に策定し、今後約30年間において、地域の人命及び資産を洪水被害から守るため、十勝川水系では大規模な河川整備を進めていく予定である。
- 今後の河川整備や気候変動に伴い、現在よりも生物の生息場がさらに減少するおそれがある一方で、過去に失われてきた生息場を回復させるネイチャーポジティブに向けた自然再生の取組を同時に行うことにより、河川整備による生息場の減少を防ぎ、生息場の再生・創出に向けた取組も可能と考えられる。
- さらには、再生・創出された環境や景観、動植物等を地域と連携して活用し、国内外から観光客を呼ぶことにより、地域振興の促進へとつなげていくことも期待される。
- このようなことを背景に、十勝川水系全体を対象とした自然再生計画を策定し、生態系ネットワークの形成による自然環境の向上を図る取組を進め、グリーンインフラとしての活用などによる地域振興や自然と共生する地域を実現する川づくりを今後進めていく。

## 本文目次

第1章	背景
第2章	理念
第3章	十勝川流域及び河川の概要
3-1	流域及び河川の概要
3-2	治水事業の沿革
第4章	河川環境の変遷と課題整理
4-1	河川環境の変遷
4-2	河川整備計画
4-3	課題整理
第5章	自然再生の目標
5-1	自然再生の必要性
5-2	自然再生の目標
第6章	自然再生計画
6-1	計画の概要
6-2	自然再生の施策
6-3	改修事業における河道掘削の留意点
第7章	自然再生事業の実施方法
第8章	モニタリング
8-1	モニタリングの考え方
8-2	モニタリング計画
第9章	自然再生事業の推進体制と地域連携

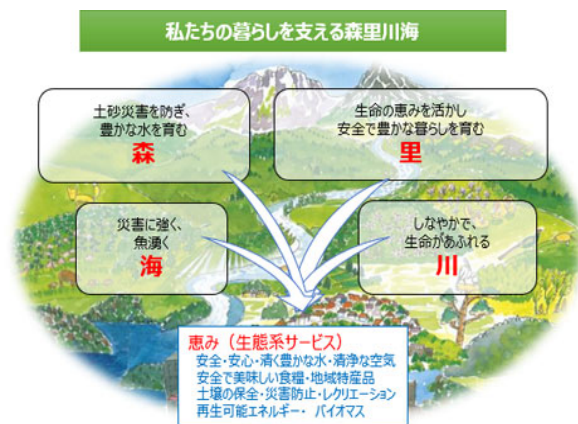
## 第2章 理念 ※以下の概要を十勝の地域の特徴を踏まえて記載する予定

### 【記述の方向性】

- 私たちの暮らしは「生物多様性がもたらす様々な恵み（生態系サービス）」によって支えられており、流域全体を捉え、河川を基軸として河川環境の保全・創出していくための方向性を記述。
- 流域を捉えるため、山川海までの河畔林等の連続性に関する記述。
- キーワードとしては、「連続性・多様性を基調とした川づくり」に関する記述。

### 【概要】自然再生の理念について、下記のような内容を記載する予定。

- 十勝川は数多くの川の流れを集め、広大な流域を形成している。そこではさまざまな生命の文化がはぐくまれており、その豊かさによって地域の暮らしが支えられ、十勝川流域の人命・資産が守られている。
- 治水と環境は私たちの社会を形成する要素であり、十勝川水系自然再生はその下支えとして自然環境が有する多様な機能を活用して地域社会に貢献するものである。
- 具体的には、社会・経済、自然環境の観点から次世代を担う人材の育成や、地域活性化や文化継承など地域が直面する課題への対応を行い、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりへ繋げていきたいと考えている。





## 本文目次

第1章	背景
第2章	理念
第3章	十勝川流域及び河川の概要
3-1	流域及び河川の概要
3-2	治水事業の沿革
第4章	河川環境の変遷と課題整理
4-1	河川環境の変遷
4-2	河川整備計画
4-3	課題整理
第5章	自然再生の目標
5-1	自然再生の必要性
5-2	自然再生の目標
第6章	自然再生計画
6-1	計画の概要
6-2	自然再生の施策
6-3	改修事業における河道掘削の留意点
第7章	自然再生事業の実施方法
第8章	モニタリング
8-1	モニタリングの考え方
8-2	モニタリング計画
第9章	自然再生事業の推進体制と地域連携

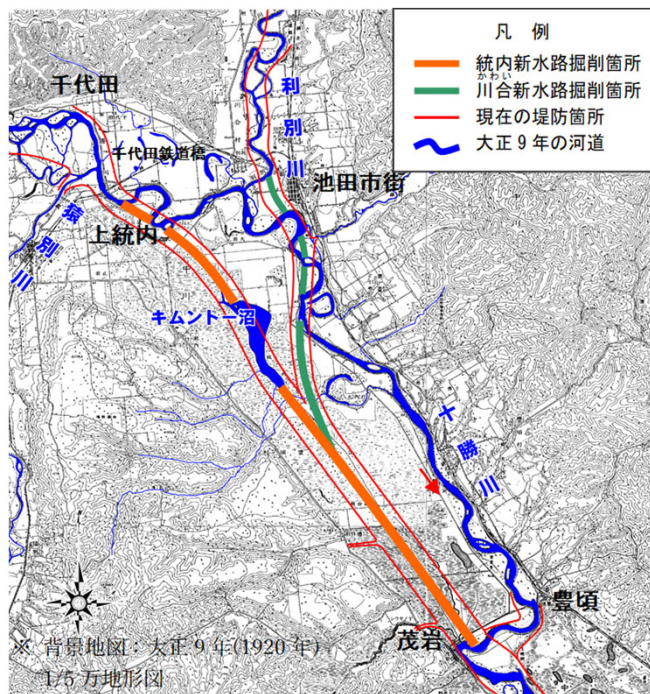
## 第3章 十勝川流域及び河川の概要 ※以下の概要を記載する予定

### 3-1 流域及び河川の概要

- 十勝川流域は、大雪山国立公園、富良野芦別道立自然公園、日高山脈襟裳国立公園が立地し、阿寒国立公園、釧路湿原国立公園が隣接する自然豊かな地域である。
- 十勝川上流部は、氷河期遺存種のケショウヤナギが分布し、国内最大の淡水魚イトウもみられる。中流部は鳥類はオオハクチョウやカモ類といった渡り鳥の越冬地及び中継地となっている。下流部はタンチョウ営巣地や採餌環境が見られるほか、シシャモが遡上、産卵している。(その他主要支川も同様に特徴を記載予定)

### 3-2 治水事業の沿革 ※治水整備が必要となった背景も合わせて記載する予定

- 十勝川の河川改修は昭和初期に中・下流部における統内新水路への切り替え、下流部では昭和30年代にトイトッキ締切堤による大津川への切り替えが行われた。堤防は昭和40年代までにほぼ連続し、上流部では霞堤が多く設けられた。
- (その他主要支川についても治水整備の内容を記載予定)



霞堤(札内川)

## 本文目次

第1章	背景
第2章	理念
第3章	十勝川流域及び河川の概要
3-1	流域及び河川の概要
3-2	治水事業の沿革
第4章	河川環境の変遷と課題整理
4-1	河川環境の変遷
4-2	河川整備計画
4-3	課題整理
第5章	自然再生の目標
5-1	自然再生の必要性
5-2	自然再生の目標
第6章	自然再生計画
6-1	計画の概要
6-2	自然再生の施策
6-3	改修事業における河道掘削の留意点
第7章	自然再生事業の実施方法
第8章	モニタリング
8-1	モニタリングの考え方
8-2	モニタリング計画
第9章	自然再生事業の推進体制と地域連携

## 第4章 河川環境の変遷と課題整理 ※以下の概要を記載する予定

### 4-1 河川環境の変遷

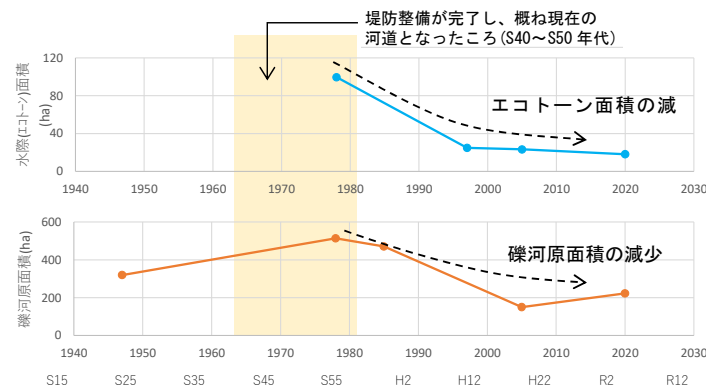
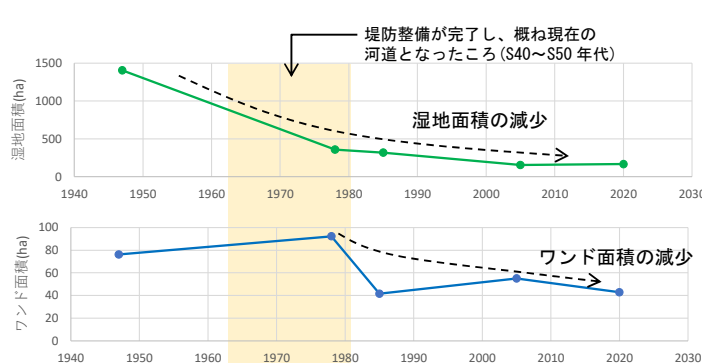
- 十勝川下流部では、新水路整備や浚渫工事、高水敷利用等により水鳥等の生息場となる湿地環境が減少した。また、旧川の埋め立て等によりワンドが減少したほか、河道掘削により河岸が急勾配化し、水際部(エコトーン)の環境が減少した。
- 十勝川上流部では、河道安定化対策等により、礫河原依存種やケショウヤギの生息・生育・繁殖環境となる礫河原が減少した。(その他主要支川も変遷を記載予定)

### 4-2 河川整備計画

- 河川整備計画の内容について整理し、気候変動に対応した目標流量を流下するため、今後約30年間で大規模な河道改修が必要となることについて記載する。

### 4-3 課題整理

- 湿地環境の減少について記載する予定。
- 水際環境の単調化について記載する予定。
- 礫河原の減少について記載する予定。
- 連続性の分断（魚類移動連続性, 樹林・河畔林の連続性）について記載する予定
- 改修断面の掘削にあたって、環境への配慮が必要であることを記載する予定。



生息場の減少(十勝川)



## 本文目次

第1章	背景
第2章	理念
第3章	十勝川流域及び河川の概要
3-1	流域及び河川の概要
3-2	治水事業の沿革
第4章	河川環境の変遷と課題整理
4-1	河川環境の変遷
4-2	河川整備計画
4-3	課題整理
第5章	自然再生の目標
5-1	自然再生の必要性
5-2	自然再生の目標
第6章	自然再生計画
6-1	計画の概要
6-2	自然再生の施策
6-3	改修事業における河道掘削の留意点
第7章	自然再生事業の実施方法
第8章	モニタリング
8-1	モニタリングの考え方
8-2	モニタリング計画
第9章	自然再生事業の推進体制と地域連携

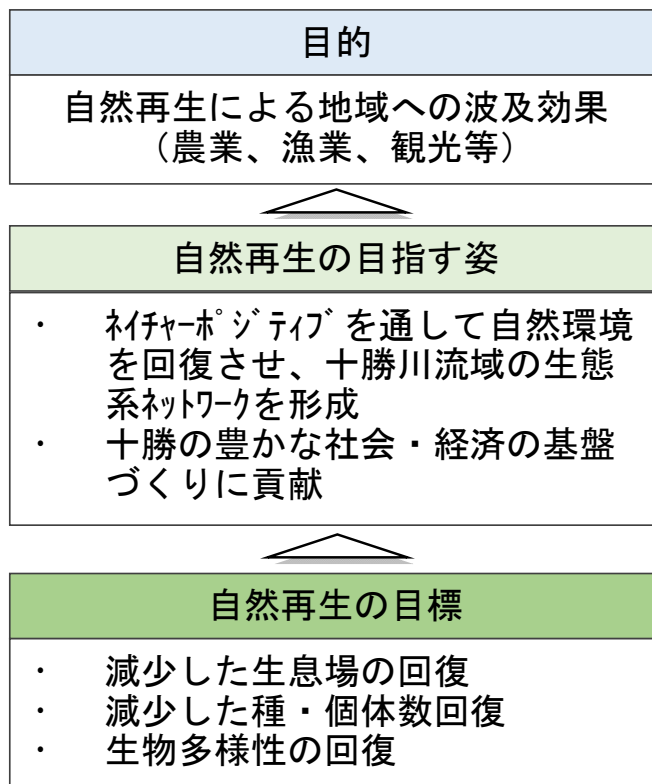
## 第5章 自然再生の目標 ※以下の概要を記載する予定

### 5-1 自然再生の必要性

- 流域全体で取り組むことの必要性を記載する。
- 大規模な河川改修によって、さらなる生息場の減少を生じさせないため、過去に失われてきた生息場を回復させるネイチャーポジティブに向けた自然再生の取組を同時に行うことが必要であることを記載。

### 5-2 自然再生の目標

※事業メニュー(場の整備)、指標(場の量・生物)、地域への波及効果の関係を体系だてて整理する予定



## 本文目次

第1章	背景
第2章	理念
第3章	十勝川流域及び河川の概要
3-1	流域及び河川の概要
3-2	治水事業の沿革
第4章	河川環境の変遷と課題整理
4-1	河川環境の変遷
4-2	河川整備計画
4-3	課題整理
第5章	自然再生の目標
5-1	自然再生の必要性
5-2	自然再生の目標
第6章	自然再生計画
6-1	計画の概要
6-2	自然再生の施策
6-3	改修事業における河道掘削の留意点
第7章	自然再生事業の実施方法
第8章	モニタリング
8-1	モニタリングの考え方
8-2	モニタリング計画
第9章	自然再生事業の推進体制と地域連携

## 第6章 自然再生計画 ※以下の概要を記載する予定

### 6-1 計画の概要

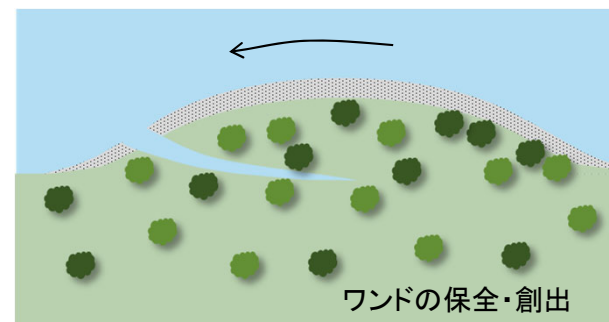
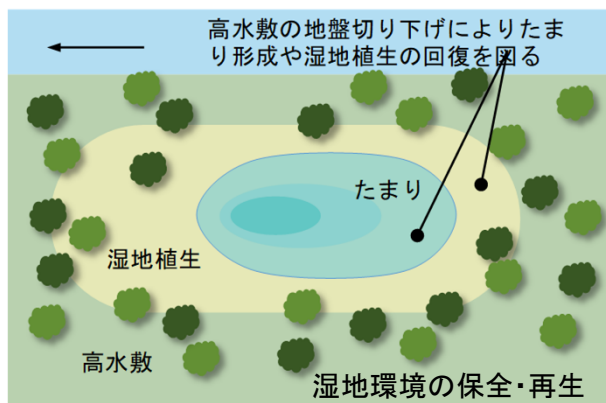
- 自然再生の目標の達成や、目指す姿及び目的の実現に向けて、各河川の課題を解決するための施策を行う。各河川で行う施策を整理して記載する。

### 6-2 自然再生の施策

- 湿地環境の保全・再生、水際環境(ワンド・エコトーン、霞堤環境)の保全・創出、礫河原の保全・再生、連続性の確保の各施策について実施概要を記載する。
- 護岸設置の際は引き込み護岸を検討しエコトーンを保全する対応を行うこと、河岸掘削の際は網場を設け土砂流出を防ぐことなどを工夫点として記載する予定。
- 自然再生に関連する「GX・DXの推進」、「SDGsの実現」、「持続可能で質の高いインフラ整備・維持管理」、「グリーンインフラ推進のための基盤整備」について、施策の概要を掲載する予定。

### 6-3 改修事業における河道掘削の留意点

- 改修事業の担当者に参照されることを目的に、掘削時に配慮すべき事項について既往の手引き(大河川における多自然川づくり)等の内容も踏まえ記載する予定。





## 本文目次

第1章	背景
第2章	理念
第3章	十勝川流域及び河川の概要
3-1	流域及び河川の概要
3-2	治水事業の沿革
第4章	河川環境の変遷と課題整理
4-1	河川環境の変遷
4-2	河川整備計画
4-3	課題整理
第5章	自然再生の目標
5-1	自然再生の必要性
5-2	自然再生の目標
第6章	自然再生計画
6-1	計画の概要
6-2	自然再生の施策
6-3	改修事業における河道掘削の留意点
第7章	自然再生事業の実施方法
第8章	モニタリング
8-1	モニタリングの考え方
8-2	モニタリング計画
第9章	自然再生事業の推進体制と地域連携

## 第7章 自然再生事業の実施方法 ※以下の概要を記載する予定

- 自然再生の実施方法について下記のような内容を記載する予定。
- 実施にあたっては、事業の実施段階に合わせて評価を行いながら進めることが重要であり、評価の結果によって必要が生じた場合には計画の見直しを行うものとする。
- また、計画の策定段階、事業実施段階及び事業実施後の管理段階において、地域との連携によって事業を進めていく。

### 自然再生事業の実施フロー

事業箇所における課題の把握

事業箇所における目標設定

自然再生実施計画案の検討  
・事業実施による予測・分析

自然再生実施計画の決定

段階的实施  
・モニタリング  
・効果検証・評価

効果の発現・目標達成

評価結果に応じて計画にフィードバック

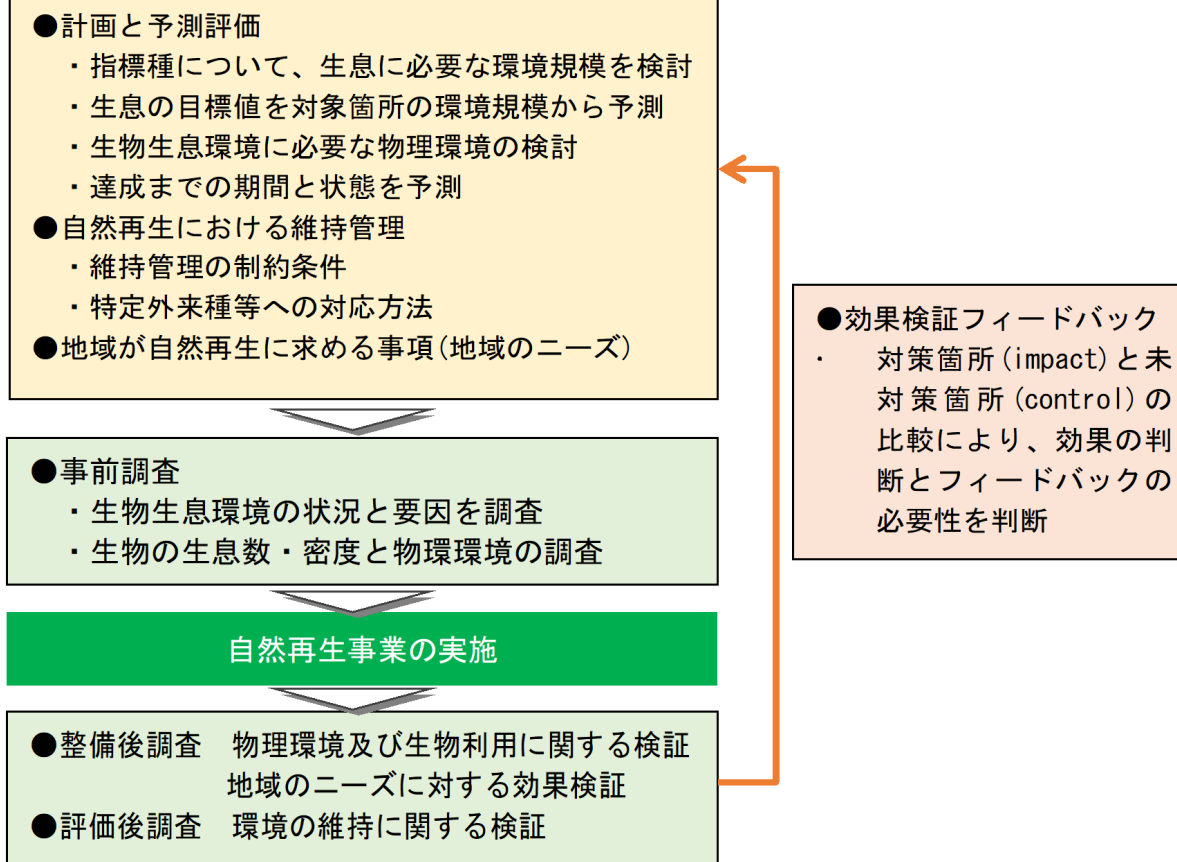
## 本文目次

第1章	背景
第2章	理念
第3章	十勝川流域及び河川の概要
3-1	流域及び河川の概要
3-2	治水事業の沿革
第4章	河川環境の変遷と課題整理
4-1	河川環境の変遷
4-2	河川整備計画
4-3	課題整理
第5章	自然再生の目標
5-1	自然再生の必要性
5-2	自然再生の目標
第6章	自然再生計画
6-1	計画の概要
6-2	自然再生の施策
6-3	改修事業における河道掘削の留意点
第7章	自然再生事業の実施方法
第8章	モニタリング
8-1	モニタリングの考え方
8-2	モニタリング計画
第9章	自然再生事業の推進体制と地域連携

## 第8章 モニタリング ※以下の概要を記載する予定

- **モニタリングに関し、以下のような内容を記載する予定。**
- 自然再生においては、河川の物理的環境の変化と生態系との関係については解明されていない点が多い。このため、事業を進めていくにあたって、見試しの手法を用いながらモニタリングを通じて整備効果の検証を行っていくことが重要。
- 自然再生を進めていくにあたって、モニタリングにより事業の効果を評価し、その結果を事業にフィードバックさせ、順応的・段階的に事業を進めていく。
- モニタリングの実施にあたっては、保全・再生地区の特性や整備の目的と内容を踏まえ、以下のフローで調査を行う。

### モニタリングのフロー



本文目次

第1章 背景

第2章 理念

第3章 十勝川流域及び河川の概要

3-1 流域及び河川の概要

3-2 治水事業の沿革

第4章 河川環境の変遷と課題整理

4-1 河川環境の変遷

4-2 河川整備計画

4-3 課題整理

第5章 自然再生の目標

5-1 自然再生の必要性

5-2 自然再生の目標

第6章 自然再生計画

6-1 計画の概要

6-2 自然再生の施策

6-3 改修事業における河道掘削の留意点

第7章 自然再生事業の実施方法

第8章 モニタリング

8-1 モニタリングの考え方

8-2 モニタリング計画

第9章 自然再生事業の推進体制と地域連携

第9章 自然再生事業の推進体制と地域連携 ※以下の概要を記載する予定

- 「基本計画」策定後は、「十勝川水系自然再生技術検討会」を設置し、事業箇所毎に具体計画を示す「自然再生実施計画」の技術的な検討及び事後評価を行う。自然再生事業の実施にあたり、住民や地域の河川協力団体との協力体制を構築し、モニタリング等を協働で行う。
- 自然再生事業に関連した利活用方策や民間投資による社会経済の発展及び維持管理体制構築等に関する検討を行うため、「十勝川水系地域連携自然再生委員会」を設置する。地域連携委員会は、自然環境や河川環境を活かした観光関連産業への利活用方策や、地域経済への発展に寄与する取組及びその環境を持続的に維持するための体制構築に関する検討を行う。

